



〔講師〕
山口高志

ケ ショウヤナギの無数の綿毛が風に乗ってフワフワと空を舞う光景を、皆さんは見たことがありますか？ それはまるでクリオネが空中を浮遊しているかのよう——。上高地に到着して、まず最初に目にした光景です。何かいいことが起こるのでは？ という予感、撮影会の2日目に現実のものに。

ほとんどが徒歩で移動する今回の撮影会。この利点は、自分の好きなポイントで自由に撮影できること。中には歩きに多少の不安を持つ参加者の方もいましたが、そこは上高地を知り尽くした山口さん、比較的短い距離でも多くの撮影ポイントがある場所を選んでくれました。

「いや、これは本当に珍しいことです」と、その山口さんを唸らせたのが2日目の天気。“クリオネ効果”なのか、梅雨時にも関わらず、なんと一面の青空が広がったのです。そのお陰で、残雪の穂高連峰はもちろん、上高地を取り巻く山々がぐるっと見渡せる最高のシチュエーションに。絶好の条件となれ

ば、参加者の皆さんの撮影カット数が増えるのは自然の流れ。「フィルムが足りないかも……」とつぶやく声も聞かれました。

満足のいく撮影ができて、皆さんの表情は

{ 上高地の“クリオネ” }
が幸運を呼ぶ!

実に晴れ晴れとしていました。帰り際には「今度は上高地の秋の風景が見たいです」と話す方もいたほど。訪れる者を魅了する上高地は、まさに“風景の聖域”でした。

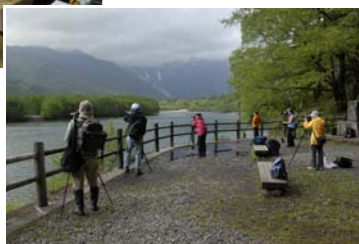
Event Report

6/11



セミナー終了後、すぐに大正池の下流側で撮影開始。時折雲間からスポット光が差し込むことも。

セミナーで、上高地について説明する山口さん。PLフィルターの使い方なども作例を交えて解説しました。



陽光が降り注ぎ、緑が鮮やかな田代池。その背後には、鋸の歯のような岩稜が連なる六百山もくっきりと見えました。

Schedule

- 11日(木)
- 13:30 開校式
- ▼ 添削指導
- ▼ セミナー
- ▼ 大正池(下流)
- ▼ 18:30 夕食
- 12日(金)
- 大正池(上流)
- ▼ 7:30 朝食
- ▼ 田代湿原・田代池
- ▼ 13:00 昼食
- ▼ 河童橋・小梨平
- ▼ 18:30 夕食
- 13日(土)
- 太兵衛平
- ▼ 7:30 朝食
- ▼ 岳沢湿原
- ▼ 11:30 閉校式

6/12



山口さん自ら「どうですか?」と声を掛けて、フレーミングをチェックすることも。



梓川の清流、立ち枯れの木、残雪の穂高連峰……。これぞまさしく上高地の代表的風景です。

撮影中、人慣れたカモが足元まで近づいてきました。



6/13



清らかな水が流れる岳沢湿原。皆さん、その透明度に驚いていました。

朝の撮影は太兵衛平付近の林間で。木々の新緑がきれいな場所でした。



風景写真“塾”WEB講評会

『風景写真』主催

山口高志×風景写真“塾”in 上高地 2009 [春]

期間：2009年6月11日(木) - 13日(土)

場所：長野県松本市上高地



講評：山口高志

魅力的な被写体に数多く出会えた上高地は、まさに「風景の聖域」と呼ぶに相応しい場所でした。特に撮影会2日目には青空が一面に広がり、梅雨時には珍しい風景を見ることができました。皆さんが撮った写真の中から、講師の山口高志さんが一枚を選んでコメントする「WEB講評会」。参加者の皆さんが、それぞれの視点で捉えた作品を講評していただきました。

*上高地風景写真“塾”の撮影会の様子は、隔月刊『風景写真』9-10月号 153ページにも掲載していますので、ぜひご覧ください。



夏近く雲が飛ぶ 竹岡美代子さん

穂高連峰上空の雲の動きをうまく捉え、雄大な雰囲気を感じられます。特に右側の明神岳の上部に架かる雲が、とてもよく動きを表していますね。さらに山腹の残雪が画面に変化をつけました。画面下が少し窮屈なので、できれば梓川の河原をもう少し見せると、よりおおらかさが出たでしょう。



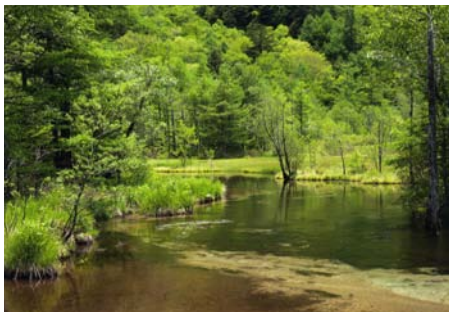
グラデーション 小林照代さん

撮影会で泊まった宿の2階から大正池を狙った発想がいいですね。水のグラデーションが美しく、色も爽やかです。立ち枯れの木立や対岸の岸辺の投影の配置が、非常によく考えられています。ケショウヤナギの柳絮(※)(りゅうじょ)が手前の水面に多く浮かび、さざ波のように見えていることで変化がつかまりました。(※)白い綿毛のついた柳の種子のこと



流雲瞬光 三元宏道さん

ちょうど西日が当たった瞬間にサワグルミの垂れ下がった実を捉え、季節感をうまく表現しています。背景の岳沢に暗雲が重くたれ込めていてドラマチックです。非常に良い素材を選んで撮りました。ただ、あとプラス0.5EVほど明るく撮ると、サワグルミの新緑の雰囲気さらによく出て、暗い背景との分離ははっきりしたでしょう。



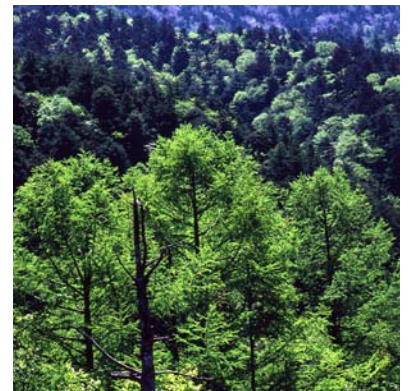
湿原の初夏 炭竈隆志さん

目に眩い階調豊かな緑色が、新しい生命の芽生えていく様子を醸し出しています。濃い緑を画面のどこどこに入れたことで、より新緑が強調されました。田代池の縁の曲線を意識しながらカメラポジションを決めたのでしょう。池が広がって見えるようなフレーミングがきれいだと思います。爽快感と奥行き感が感じられる作品です。



朝光 松井貞生さん

雲間からスポット的に差し込んだ西日が、大正池畔の樹林帯を照らした瞬間を狙った作品で、現地の天気の変化に柔軟に対応しています。重い雨雲がかかった明神岳を背景に入れたのもいい判断で、画面に流動感や立体感が生まれました。梅雨時の大正池畔の雰囲気を、うまく表現しています。



若葉萌ゆ 鈴木 紘さん

光を上手に活かして撮っています。針葉樹の深い緑を配したことで、光をいっぱい浴びたカラマツの新緑がいっそう浮き立って見えます。芽吹き前のダケカンバ帯を画面右上部に少し見せたことで、視線が天に向かって抜けていきます。バランスのいいフレーミングで、生命感のある風景をうまく捉えました。



峰に映える 小川美南子さん

雪解け水が、とうとうと流れる梓川に生える立ち枯れの木を捉えています。早朝のサイド光が木に当たり、木の手前側が半シルエットになったことで、画面が引き締まりました。奥に見える三筋の残雪をうまく画面に取り入れて遠近感が出ています。画面構成がとてもよく吟味された作品です。



憧憬穂高 金田 茂さん

タイトル通りの雰囲気が感じられる作品です。両サイドのカラマツが影になっていることで、ハイカーが暗い場所を抜けて明るい場所に向かって歩く感じがよく出ています。いいタイミングを狙って撮っていますね。林間の上部に残雪の穂高連峰を配したことでスケール感が出ました。いかにも上高地らしい風景と言えるでしょう。